

たたがいの半分をささえよう

日刊 勤労千葉

87. 2. 14

No. 2477

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

女性のたくましく生きて中曽根を倒そう

写真

一月二五日結成された、本部家族会の会長・林喜美子さんより、組合員・家族に向けたアピールが寄せられましたので、ここに掲載します。

写真



勤労千葉家族会会長・林喜美子

夫と共に闘いぬく

一月二五日（日）本部家族会が結成されました。昨年、三月十三日、天台地区家族会ができて、大会、集会、「俺たちは鉄路に生きる」の上映会挨拶、駅前での青年部主催のピラマキ等を数多く行ってきました。これらに参加するたびに早く本部家族会ができて、もっと多くの家族会の方々と行動を共にできたらどんなにすばらしいかしらといつも思っていた私は喜びで一杯です。

迫り来る最大の課題は、分割・民営化です。政界・財界が勝手に赤字にしておいて、その後始末だけを国鉄職員に押しつけるという行為が、まさに目の前でおきている。今こそ妻達が夫をバックアップして一緒に闘わなければならないのです。

戦争のない平和な暮らしを

中曽根は、選挙公約で「大型間接税は導入しない」と言っておきながら、選挙がおわったとたん名前を変えて導入する。庶民は、またまた重い税に苦しめられる。福祉が削られ、軍事費は増され、国民総生産の1%枠突破にまでいき、このままでは米・ソに次ぐ世界で三番目の軍事大国化になるのです。家の娘でさえ「お母さん、戦争はもうやらないと言っているのに何で軍事費が上がるの」って、そうなのです。中曽根は、戦争がしたくしてたくてウズウズしているのです。

私達が闘う最終目的は、戦争の無い平和な暮らしです。可愛い我が子を戦場へは絶対に送ってはならないのです。

日曜日に集会や大会へ行くため留守番にする時に、子供達が嫌な顔をしたら、遊びに行くのではないこと、自分（母）がどのような考えで行動しているのかを子供達にわかりやすくきちんと説明してあげて下さい。

母が生前言っていました。「戦争さえ無かったらお前達にもっと良い暮らしをさせてあげられた」と。母のあの時の、あの言葉が数十年間という長い年月、私のハートと頭の片隅で密かに息づいていたのです。母のような言葉を吐く女性を出してはならない。一人も出してはならないのです。

戦争政治反対を行動として

大会、集会参加は、本当を言うと大変です。一週間で一度の休みは、やりたいことが山ほどありますが、でも私は出かけます。行かないということとは、中曽根の戦争政治に賛成していることのように感じるのです。

子供達は、母親の言葉や行動を見ていないように感じると観察しているのです。お母様方の御奮闘を願っております。



デモ行進の先頭で頑張る家族会のお田さんと千比呂

86年10月12日 清水谷公園